

議員提出議案第 8 号

石垣港港湾計画における臨港道路新港 3 号線の早期事業化を求める意見書

このことについて、石垣市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により提出いたします。

令和 7 年 3 月 17 日

提出者	長	山	家	康
賛成者	東内原	とも子		
	〃	友	寄	永 三
	〃	石	川	勇 作
	〃	伊良部	和	摩
	〃	登野城	このみ	
	〃	高	良	宗 矩

石垣市議会

議長 我喜屋 隆次 殿

理 由

石垣港臨港道路新港 3 号線の早期事業を求めるため。

石垣港港湾計画における臨港道路新港3号線の早期事業化を求める意見書

石垣港は、八重山地域の市民生活や経済活動を支える物流・人流の拠点港として、沖縄本島との大型 RORO 船や竹富島・小浜島・西表島などへの離島高速船が就航し、観光客や物資の流れを担う重要な役割を果たしている。さらに、南西諸島全体における防災・安全保障上の観点からも欠かせない存在であり、こうした地理的・戦略的な意義から、昨年4月には全国で初めて特定利用空港・港湾に指定された11施設の一つとなった。

しかしながら、現在、石垣市街地と海を隔てた新港地区（南ぬ浜町）を結ぶ道路はサザンゲートブリッジ1本しかなく、クルーズ船寄港日やイベント開催時、大規模イベント時には車両が集中し、深刻な渋滞を引き起こしている。これにより、緊急車両の通行や津波警報時の避難にも支障をきたすおそれがある。2024年度には石垣港へのクルーズ船寄港回数が120回で、全国5位となったが、さらなる寄港増加や、石垣島と台湾の基隆港を結ぶ定期フェリー航路開設を見据えると、増加する観光客や物流に対応することは大変困難であり、今後さらなる混雑と機能不全が避けられない状況にある。

また、取扱貨物量の増加や船舶の大型化などを背景として、浜崎町地区の岸壁や荷捌施設、保管施設などの不足・狭隘化が進み、片側荷役しかできないなど非効率な状況が生じている。これらの課題を解消するため、新港地区での RORO 埠頭再編が計画されており、今後は同地区を中心に物流取扱量がさらに増加すると見込まれる。しかし、交通アクセスがサザンゲートブリッジ1本のみでは、観光・物流のいずれにおいても増大する需要に対応するうえで大きな制約となることは明らかである。

こうした問題を根本的に解決し、石垣港の機能強化を図るとともに、防災対策や観光振興を同時に進めるためにも、石垣港港湾計画に位置づけられている臨港道路新港3号線の早期整備が不可欠である。サザンゲートブリッジと併せて複数の架橋ルートを確認することで、クルーズ船寄港日やイベント開催時のみならず、今後日常化しかねない交通渋滞の緩和や災害時の孤立防止に寄与し、地域の安全保障や防災拠点としての役割もさらに強化される。特定利用港湾に指定された石垣港において、この重要なインフラを早期に整備することは、地域の持続的な発展と住民の安全・安心を確保するうえで極めて重要である。

よって当市議会は、石垣港港湾計画に基づく臨港道路新港3号線の早期事業化と必要な予算措置を、国に対し強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和7年3月17日

石垣市議会

宛先 内閣総理大臣、内閣官房長官、防衛大臣、国土交通大臣、
内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）